

平成30年北海道森づくり研究成果発表会について

企業支援部 普及連携グループ 大西人史

平成30年4月19日（木）に平成30年北海道森づくり研究成果発表会を北海道立道民活動センターかでの2・7（札幌市中央区北2条西7丁目）で開催しました。

発表会は、口頭発表とポスター発表に分かれており、口頭発表の一般発表は、北海道森林管理局から1件、北海道から2件、民間企業から1件、計4件の発表がありました。

同じく口頭発表の道総研研究成果発表では、林産試験場と林業試験場の11件の研究成果が、次の4つのテーマに分けて発表されました。

1. 「針葉樹人工林の循環利用を進める研究」では、苗木の段階から森林の施業計画、大径材の利用に関する発表。

2. 「トドマツ人工林における環境に配慮した森林施業に関する研究」では道有林をフィールドに実施している大規模な施業実験である「保残伐」について、5年間の取組をとりまとめた経過報告。

3. 「広葉樹資源の把握と利用に向けた研究」では、資源状況の概要と比較的成長の早いカンパ類・ケヤマハンノキという広葉樹の利用に向けた発表。

4. 「森林資源の利活用と管理に関する研究」では、エネルギー利用や樹木の診断装置、まつたけ山づくりを目指した取組についての発表。

これらの口頭発表では、多くの質問や貴重な意見を頂きました（写真1,2）。

ポスター発表では、一般発表は森林総研の発表を含めて5件、道総研発表が30件、計35件のポスター展示のほか、林産試験場が建設するCLTパビリオンを紹介する展示や、試作されたコンテナ苗運搬機の展示などが行われ、12:30～13:30と15:45～16:15の2回のコアタイム（発表者によるポスター内容の説明時間）を中心に参加者との活発な意見交換が行われました（写真3）。

ポスター発表・写真展会場では、北海道水産林務部森林環境局森林活用課による「活躍する森林所有者の紹介」と、北海道林業普及指導職員協議会による、日頃の普及指導活動を紹介した写真展が開催され、こちらも大変な盛況でした。

また、技術相談などを希望する方々には、別室に

企業相談コーナーを設けて利用できるようにしました。

今回の成果発表会の参加人数は451名、そのうち企業・団体からの参加人数は213名で、昨年とほぼ同数の方々に御来場いただきました。

本誌では当日の発表内容のうち、林産試験場の口頭発表、ポスター発表を7月号まで3回に分けて特集しますので、ぜひ御一読ください。



写真1 口頭発表の様子



写真2 口頭発表会場の様子

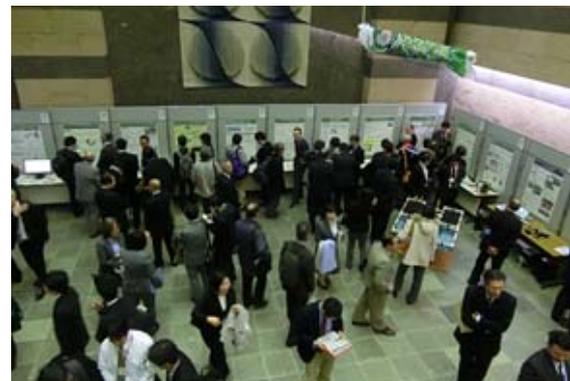


写真3 ポスター発表コアタイムの様子